

➤ 上里町では、木材の利用促進、普及啓発に資することを目的として、木製品への親しみを深めることにもつながるよう、木製食器等を贈呈し、利用してもらう取組を行っている。

□ 事業内容

地域子ども子育て支援事業

- ・ 新生児の保護者へ、県産木材を使用した製品を祝品として贈呈する。

【事業費】 2,380千円（うち譲与税2,379千円）

（譲与税は、購入費に係る部分に充当）

【実績】 令和5年度は127人に贈呈。

□ 取組の背景

- ・ 子育て支援施策の充実を図る中で、「新たに町民となったお子さんへのお祝いとして、後々残るものを贈りたい」との考えがあり、令和3年度より出産祝品の贈呈を開始した。各家庭の状況に応じて祝品を選択していただけるよう、令和5年度より新たに2種類を追加し、3種類の中から一つ選べるようにした。
- ・ 日常的に、かつ比較的長い期間使ってもらえるものとして、木工品にした。また、それにより木材の利用促進・普及啓発につながることから、森林環境譲与税を財源として活用することとなった。
- ・ 製作は県内業者に依頼しており、打ち合わせを重ね、町の希望に沿った製品が完成した。



□ 工夫・留意した点

- ・ 令和5年度より、①多機能椅子と食器のセット②月齢フォトブロック③お食い初めセットの3種類となった。
- ・ どの製品も乳幼児が使用するため、なめらかな手ざわりにした。
- ・ 多機能椅子は新生児の名前と生年月日、フォトブロックには名前を希望により印字できるようにした。
- ・ 多機能椅子は、椅子としてはもちろん、絵本の収納・踏み台にすることもでき、成長しても使い続けられるよう工夫した。

□ 取組の効果

- ・ 乳幼児の頃より、木に触れることで『木育』の効果が期待できる。
- ・ 子どもの成長と共に、木の風合いの変化を楽しむことができ、長く使い続けることができる。
- ・ 多機能椅子の製作は、障がい者就労施設である社会福祉法人幸仁会 川本園に依頼しており、障がい者支援の側面も併せ持っている。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：3,462千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.2%	④人口（※2）：30,343人	⑤林業就業者数（※2）：2人

- ▶ 小川町では、森林環境譲与税の創設を機に、木材利用や普及啓発活動を通じた住民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいく方針。
- ▶ 令和5年度から、小川町に住所を有する新生児を対象とした事業として、町産木材を使用した木製の誕生祝品（あしのメモリー）を贈呈し、木材利用及び普及啓発の活動を行っている。

□ 事業内容

町産木材を活用した木製の成長記録板（あしのメモリー）の贈呈

- ・町内に住所を有する新生児について、町産木材を利用した成長記録板（あしのメモリー）を誕生祝品として贈呈することで、木材利用及び普及啓発活動を行った。

【事業費】407千円（全額譲与税を充当）

【実績】配布数：74件

□ 取組の背景

- ・木材利用及び普及啓発活動の一環として、乳幼児期からのお子様の成長を記録してもらうとともに、木の手触りや香り、ぬくもり、質感等を感じてもらい、木や森に関心を持っていただくことを目的とするため。



（成長記録板（あしのメモリー））

□ 工夫・留意した点

- ・小川町産の間伐材を使用。
- ・成長記録板だけではなく、スタンド、スタンプ、小川和紙をセットでプレゼント。
- ・片面には、新生児のお名前、誕生日、出生時の体重・身長を記載。

□ 取組の効果

- ・申込書記入時には多くの親御さんから喜びの声をいただいている。
- ・具体的な効果については検証できていない。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：11,786千円	②私有林人工林面積（※1）：1,656ha
③林野率（※1）：53.8%	④人口（※2）：28,536人
	⑤林業就業者数（※2）：1人

- 寄居町は、総面積の約36%が森林となっており、スギ・ヒノキを中心とした人工林からコナラ・クヌギ等の天然林までバラエティーに富んだ構成となっているが、森林に対する住民の意識・価値観が多様化し薄れていくという課題がある。
- このため、森林がもたらす環境への影響や森林保全の大切さについて学び、森林に触れる体験を通して森林を身近に感じてもらうイベントを実施。

□ 事業内容

森林体験イベントの実施

- ・町内の小学生を対象に、森林に関わる学びの時間及び森の中でのロープクライミング体験を実施

【事業費】342千円(全額譲与税)

【実績】参加者20名

- 森林と環境について学びの時間
- 森林保全のため使用したシカ柵ネットの撤去
- 専門インストラクターをつけたロープクライミング体験

□ 取組の背景

- ・異常気象などの環境が変化の中で、森林がもたらす役割の大切さを再認識すること
- ・日常生活の中で子どもたちが森林に触れる機会が少ない
- ・生まれ変わるための伐採や植林だけではなく、長い年月をかけて、森林を育てていく必要性

□ 工夫・留意した点

- ・森の中での、体を使った作業や体験ができるイベント内容の設定
- ・森林環境保全に関わるボランティア団体等が行う学びの時間

□ 取組の効果

- ・教育機関や他団体と連携をもつことで、木材加工教室の開催や公共施設への利用など町産木材を活かした活動へのつながり
- ・森林に対する関心度の向上



◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：6,030千円		②私有林人工林面積(※1) ：775.04ha	
③林野率(※1) ：35.9%	④人口(※2)：32,374人		⑤林業就業者数(※2) ：6経営体

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



(学びの時間)

(シカ柵撤去)

(クライミング体験)

- 熊谷市では、森林環境譲与税の創設を契機に、県産木材を活用して、木材利用や普及啓発活動を通じた住民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいく。
- このため、令和5年度においては、以下の取り組みにより、普及啓発活動を行った。
 - ・埼玉県産木材を活用し、熊谷市内に所在する指定文化財の説明板5基、星溪園休憩椅子及び車止めを作成した。

□ 事業内容

1. 森林環境譲与税埼玉県産木材利用促進業務委託

埼玉県産材を活用し、文化財説明板、休憩椅子及び車止めの製造を実施。

【事業費】1,995千円（うち譲与税1,995千円）

【実績】文化財説明板5基、星溪園の休憩椅子4脚及び車止め2基

□ 取組の背景

木材の利用促進と、熊谷市における文化財の歴史について普及・啓発をするため、県産木材で作成した説明板を市内の指定文化財に設置した。

□ 工夫・留意した点

屋外型の説明板と異なり屋内型の説明板の設置については、室内空間の景観と融合させるという観点からも木材の質感を生かした説明板が適当であり、県産木材の利活用という制度上の主旨とも合致したと考えられる。

□ 取組の効果

文化財についての理解度の向上に加え、木製の柔らかく温かみのある雰囲気、寺院等、設置場所の景観と調和している。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額 ：21,672千円	②私有林人工林面積（※1） ：57ha	
③林野率（※1） ：2.7%	④人口（※2） ：194,415人	⑤林業就業者数（※2） ：2人



（説明板）



（車止め）



（休憩椅子）

- 東松山市では、森林環境譲与税を中長期的な視点で計画的に使用するため、東松山市森林環境基金を設置している。譲与税の用途については、基金活用検討委員会を設置し全庁的な協議の場を設け、効果的かつ適正な執行が行える体制を整備している。
- 彫刻家 高田博厚の彫刻を展示するための埼玉県産木材を使用した展示台を作成した。

□ 事業内容

彫刻展示台の作成

- ・ 彫刻家 高田博厚の彫刻を展示するための展示台を作成する。

【事業費】269千円（うち譲与税269千円）

□ 取組の背景

- ・ 高田博厚没後30年に当たる平成29年に高田のアトリエから彫刻及び彫刻台が寄付された。
- ・ 彫刻展示台は経年劣化により、展示の際には安全面に不安があった。



（展示台）



（展示の様子）

□ 工夫・留意した点

- ・ 森林環境譲与税を活用したことを広くPRできるように展示台に表示した。



□ 取組の効果

- ・ 多くの市民が、高田の作品を鑑賞する機会を提供することで文化芸術の普及が図れた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：10,342千円	②私有林人工林面積（※1）：52ha	
③林野率（※1）：6.1%	④人口（※2）：91,791人	⑤林業就業者数（※2）：6人

➤ 令和6年度からの森林環境税を理解及び周知のため、森林・林業体験イベントを実施。

□ 事業内容

森林・林業体験運営業務

- ・ 高性能林業機械のデモンストレーション。
- ・ ツリーイング。
- ・ 森林・林業の普及啓発。

【事業費】 418千円（うち譲与税418千円）

【実績】 28人

□ 取組の背景

- ・ 令和6年度からの森林環境税を理解及び周知のため、森林・林業体験イベントを実施。



(ツリーイング体験)



(高性能林業機械)

□ 工夫・留意した点

- ・ ツリーイング体験を始める前に森林環境税を理解してもらう挨拶をしました。対象は小学生から父兄まで分かりやすい内容にしました。

□ 取組の効果

- ・ 記念品（啓発品）の木材コースターもイベント共々好評であり、林業についても興味を持ってもらいました。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：11994千円	②私有林人工林面積（※1）：1161ha	
③林野率（※1）：26.9%	④人口（※2）：78569人	⑤林業就業者数（※2）：6人

- 川島町では町内に森林がなく、子どもたちの木材との触れ合いの場所が限りなく少ない。
- このため、子育て支援総合施設である「かわみんハウス」へ国産木材を使用したおままごとセットを導入した。

□ 事業内容

子育て支援総合センター管理運営事業

- ・ 子育て支援総合センター「かわみんハウス」内に国産木材を使用したおままごとセットを導入することで、国産木材の活用、木材の普及啓発を図る。

【事業費】 393千円（うち譲与税393千円）

【実績】 国産木材使用おままごとセット

□ 取組の背景

- ・ 木育の場が限られる町内において、子どもたちが国産木材に触れる機会を創出する。
- ・ 子供たちの環境教育について一層の充実を図る契機とする。

□ 工夫・留意した点

- ・ 国産木材を使用した。
- ・ 木育の観点から子どもたちが触れる機会の多いおままごとセットを購入した。

□ 取組の効果

- ・ 川島町の風土と調和がとれた、温かみのある子どもの生育環境が実現された。
- ・ 子どもが愛着を持てる施設整備がされた。



おままごとセット



おままごとセット



おままごとセット

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：2,026千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：19,378人	⑤林業就業者数（※2）：0人

-32-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 川越市では、木材の利用の促進を想定しており、市有施設等の建築及び改修にあたっての利用や、施設で導入するロッカーやベンチなどでの利用をする方針。
- ▶ 令和5年度においては、以下の取組を実施。
 - ・埼玉県産木材を使用し、ロッカーの修繕を実施した。

□ 事業内容

公立保育所における、ロッカーの修繕

- ・埼玉県産木材使用 ロッカー修繕（高階保育園）
- ・埼玉県産木材使用 ロッカー修繕（名細第二保育園）

【事業費】

8,195千円（全額譲与税）

【実績】

高階保育園ロッカー 21台
名細第二保育園ロッカー 43台



（高階保育園ロッカー）



（名細第二保育園ロッカー）

□ 取組の背景

- ・公立保育所において、県産木材を使用してロッカーを修繕することにより、園児及び職員が木材に触れ合う機会を創出し、木材利用に対する理解を深めようとするもの。

□ 工夫・留意した点

- ・ロッカーを修繕するにあたり、県産木材を使用した。

□ 取組の効果

- ・園児及び職員が木材と触れ合う機会を創出し、木材利用に対する理解を深めることができた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：38,160千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人	⑤林業就業者数（※2）：7人

- 川越市では、木材の利用の促進を想定しており、市有施設等の建築及び改修にあたっての利用や、施設で導入するロッカーやベンチなどでの利用をする方針。
- 令和5年度においては、以下の取組を実施。
 - ・市学童保育室の木質整備を実施した。

□ 事業内容

市学童保育室施設への木質整備

老朽化した学童保育室施設を森林譲与税を活用することにより整備する。

【事業費】15,517千円（全額譲与税）

【実績】市内4学童保育室に以下の木質整備を行った。

児童用ロッカー取替修繕（山田学童保育室1台、大東東学童保育室1台）

学童保育室の内装木質化（福原学童保育室：2部屋分）

本棚作り替え修繕（川越学童保育室1台）

□ 取組の背景

老朽化している学童保育施設の更新を検討していた一方で、施工費が高額になることから、財源を確保する一環として、森林環境譲与税を活用することとした。

また、良質な県産木材を用いて更新を行うことにより、より長く使用できる施設になることを見込み、本事業を活用した。



（内装の木質化：福原学童保育室）



（本棚作り替え修繕：川越学童保育室）

□ 工夫・留意した点

- ・木材の良さが伝わるよう、児童が接する機会が多いと想定される場所を施工場所として選定した。
- ・可能な範囲で無節な材質を選定し、木のぬくもりや明るさが伝わるよう施工した。
- ・県産木材なので、材質が柔らかいと想定されるため、塗装を行った。

□ 取組の効果

- ・市負担を抑えつつ、施設の整備を行うことができた。
- ・木のぬくもり溢れる施設になった。
- ・児童が木や木材に関心を持つ機会が生まれた。
- ・施設が新しくなったことにより、保育室が明るくなり、利用者がその施設を大切に使う意識が芽生えた。
- ・違う施設の整備にも木材を使用できないか検討するきっかけになった。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：38,160千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人	⑤林業就業者数（※2）：7人

- 所沢市では、小中学校の校舎内部の老朽化が課題となっている。
- このため、学習環境の整備及び長寿命化を目的とした校舎内部木質化改修工事を実施。

□ 事業内容

老朽化する市内小中学校の校舎内部について、「所沢市公共施設長寿命化計画」「所沢市公共建築物における木材の利用の促進に関する指針」に基づき、学習環境の整備及び長寿命化を目的として、木材を活用した改修工事を実施する。

(学校施設環境改善交付金 補助率1/3)

【事業費】109,670千円(うち譲与税23,977千円)

(譲与税は、木工事に係る部分に充当)

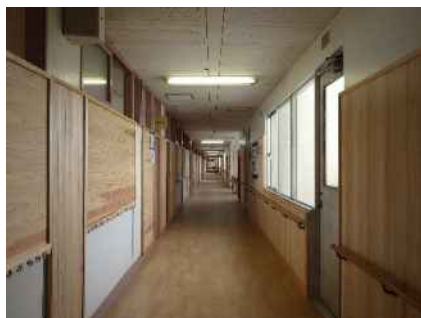
【実績】所沢市立南陵中学校の校舎3・4階の内装木質化

□ 取組の背景

市内小中学校は築後40年以上経過する建物が多くを占め、児童・生徒が1日の大半を過ごす校舎内部はこれまで更新が行われておらず、老朽化が進行している。



(普通教室)



(廊下)

□ 工夫・留意した点

「所沢市公共建築物における木材の利用の促進に関する指針」に基づき、主要な教室、廊下等について、可能な限り内装の木質化を進めた。

また、積極的に県産木材を使用した。

□ 取組の効果

内装の木質化により、児童・生徒のストレス緩和や集中力の向上、校舎内の温熱環境の向上が期待される。

また、木材利用の推進による循環型社会の構築や地球温暖化の防止、林業や木材産業の振興等に資する効果が期待される。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：36,744千円	②私有林人工林面積(※1)：17ha	
③林野率(※1)：8.2%	④人口(※2)：342,464人	⑤林業就業者数(※2)：6人

- 富士見市では、市有施設等の県産木材を利用した木造化・木質化等を推進する方針としている。
- このため、令和5年度は水谷小学校における校舎増築工事における内装に国産材を使用。

□ 事業内容

水谷小学校校舎増築工事

- ・ 放課後児童クラブの整備（1F）
- ・ 普通教室等の整備（2F～4F）

【事業費】633,189千円（うち譲与税 3,405千円）
（譲与税は、放課後児童クラブの床材に充当）

【実績】201㎡

□ 取組の背景

- ・ 水谷小学校における児童生徒数の増加に対応するために、増築校舎を建設
- ・ ZEB（Nearly ZEB）の認証を取得し、高い環境性能を実現



（増築校舎外観）



（放課後児童クラブ床）

□ 工夫・留意対応

- ・ 水谷小学校増築校舎1Fに整備した放課後児童クラブの床材に国産材を使用
- ・ 木材価格が高騰するなかで、埼玉県産材ではなく国産材を採用することで、費用を抑制

□ 取組の効果

- ・ 放課後児童クラブの床に国産材を使用したことで、児童生徒がリラックスして過ごせる空間を創出することができた。
- ・ 木材を身近に感じられ、森や自然環境に対する興味関心を高めることができた。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：11,844千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.7%	④人口（※2）：111,859人	⑤林業就業者数（※2）：2人

- ▶ 坂戸市では、林業や森林経営管理制度の該当もなく、人材育成や担い手の確保への森林譲与税の活用は難しい。このことから、主に市で管理する森林の保全や、木材利用に活用していく方針。
- ▶ 令和5年度は、公私連携型保育所の新園舎整備に活用した。

□ 事業内容

公私連携型保育所推進事業

公私連携型保育所「坂戸保育園」の整備

【事業費】506,500千円（うち譲与税23,237千円）
（譲与税は、工事費に係る部分に充当）

【実績】木材使用量 80.87m³（うち埼玉県産木材61.65m³）



□ 取組の背景

- ・老朽化している坂戸保育園の園舎の建替え
- ・建替えにあっては、木のぬくもりを感じられる園舎を目指した



□ 工夫・留意した点

- ・保育室にはヒノキ材のフローリングを活用した。
- ・重ね梁を活用し、木を感じられる空間とした。
- ・保育室の建具など手の触れる場所は可能な限り木材を使用した。



◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：10,504千円	②私有林人工林面積（※1）：5ha	
③林野率（※1）：1.6%	④人口（※2）：100,275人	⑤林業就業者数（※2）：2人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 鶴ヶ島市では、循環型社会を目指し環境美化の推進を図るため、「5R（ゴアール）」の取組や不法投棄防止の取組などによりさらなるごみの減量を進めていく方針である。
- ▶ このため、取組の一つとして生ごみ処理器キエーロを市民に向けて販売し、一般家庭における生ごみの自己処理によるごみの減量化や、焼却量の削減に対する意識の醸成を図る。

□ 事業内容

5R推進事業

- ・ 生ごみ処理器キエーロの販売
- ・ 環境月間、地球温暖化防止月間における啓発展示。
- ・ 市役所朝市における実演販売
- ・ 広報、HP掲載による普及・啓発。
- ・ 購入者へのアンケート調査実施、結果の公表。

【事業費】864千円（うち譲与税691千円）

（譲与税は、消耗品費に係る部分に充当）

【実績】30基を製作、28基を販売

□ 取組の背景

- ・ ごみの減量化が課題であり、可燃ごみとして排出される物のうち、その重さの約3割を占める生ごみを自己処理することができたら、大幅なごみの減量につながると考え取組を開始した。
- ・ 最初は市民提案による協働事業としてモニター募集からはじめ、翌年にはオリジナルキエーロを組み立てる親子工作教室を開催。その後、市の事業として引き継ぎ販売を開始することとなった。



（西川材で製作された生ごみ処理器キエーロ）

□ 工夫・留意した点

- ・ キエーロを作成する際、塗装などを施さず、西川材という素材の美しさを生かしてもらった。購入者からは、「天然木の木肌がきれい」、「おしゃれ」などの意見が多く好評である。
- ・ キエーロの普及啓発のため、つるがしま市民環境まつり（6月10日）、環境月間啓発展示（6月2日～16日）、地球温暖化防止月間啓発展示（12月5日～15日）において、キエーロの展示を行った。
- ・ 市役所朝市（1月13日、2月10日、3月9日）では、キエーロの実演販売を行った。

□ 取組の効果

- ・ キエーロを使って生ごみとなるものをどれくらい処理できたかについては、ほぼ処理できた（53%）、半分以上が処理できた（37%）と回答があった。令和5年5月～令和6年2月までの期間で、一人あたり約11,720グラム、1日約38グラムのごみの削減となった。
- ・ キエーロの展示により3件の購入申請、実演販売により1件の購入申請があった。これらの取組により、キエーロの使用に関わらず、自宅で生ごみを処理することがゼロカーボンの実現に繋がることを周知できた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：7,526千円	②私有林人工林面積（※1）：15ha	
③林野率（※1）：4.0%	④人口（※2）：69,942人	⑤林業就業者数（※2）：3人

-38-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ ふじみ野市では、小規模な森林が点在し林業もないため、森林整備や人材育成・担い手の確保への譲与税活用は難しく、森林経営管理制度の該当もないことから、木材利用に充てていく方針。
- ▶ 令和2年度は、西小学校校舎大規模改造事業に係る内装の木質化を実施したが、令和3年度においては、以下の取組を実施した。

□ 事業内容

1 公共施設の木質化事業

- （仮称）西地域文化施設整備事業

【事業費】13,812千円（うち譲与税12,174千円）

【実績】和室及びホール舞台の内装木質化



□ 事業スキーム

- 1 公共施設の木質化事業
（仮称）西地域文化施設整備事業
森林環境譲与税 → 内装木質化

□ 工夫・留意した点

- 木質化工事を実施したことに伴い、利用者への温かみと潤いのある施設の環境づくりができる。
- 木質化はストレス反応の緩和や健康空間の改善、室内の温熱環境等の向上効果があるものと考えられる。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：12,174千円	②私有林人工林面積（※1）：1ha	
③林野率（※1）：2.2%	④人口（※2）：113,597人	⑤林業就業者数（※2）：1人

- ▶ 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく
- ▶ 埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を活用し登録証等を作成し配付した

□ 事業内容

こしがやSDGsパートナーの登録者へ、木製ピンバッジおよび木製盾を交付する

- ・材料は、埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を利用する

【事業費】1,826千円（全額譲与税）

【実績】木製ピンバッジ：1,500個

木製盾：150個

□ 取組の背景

- ・こしがやSDGsパートナー登録者へオリジナルロゴマークをあしらった木製ピンバッジおよび登録証を交付するにあたり、森林環境譲与税を活用し埼玉県産の間伐材を使用することとした。

令和5年度末登録者数 → 企業・団体等：90 個人：16

※盾については企業のみへ交付。



（木製ピンバッジの写真）



（木製盾の写真）

□ 工夫・留意した点

- ・埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を利用したこと、森林環境譲与税を活用していることがわかるよう、木製ピンバッジ用の紙の台紙を作成し明記した。
- ・盾には直接森林環境譲与税を活用している旨を刻印した

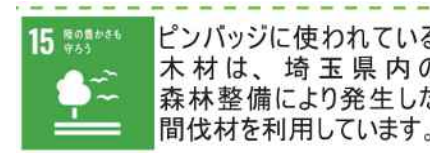
デザインコンセプト

向かい合った2羽のしらこぼとが天空に向かって飛び立つ様子。SDGsに取り組み、市が飛躍していく姿を表現している。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



このピンバッジは、森林環境税を活用して作成しています。



（木製ピンバッジ台紙より）

□ 取組の効果

- ・もともと環境意識も高いこしがやSDGsパートナー登録者へ交付することで、森林環境譲与税についてより効果的に普及啓発することができた。
- ・企業の窓口などに設置いただくことで、森林環境譲与税について広く普及啓発ができた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：35,734千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく
- ▶ 令和5年度に完成した新庁舎（エントランス棟）のエントランスホール及び市民ラウンジ等に設置する木製備品の購入を行った

□ 事業内容

新庁舎（エントランス棟）エントランスホール及び市民ラウンジ等に設置する国産木材を使用したソファ、イス、テーブル及びキッズスペース家具の購入

【事業費】 15,246千円（うち譲与税15,246千円）

【実績】ソファ（国産ナラ材使用）	8台
リビングテーブル（国産ナラ材使用）	4台
ベンチ（国産針葉樹、スギ使用）	14台
台形テーブル（国産針葉樹、スギ使用）	2台
長方形テーブル（国産針葉樹、スギ使用）	5台
イスA（国産ナラ材使用）	32台
テーブル（国産ナラ材使用）	8台
カウンターチェア（国産ブナ材使用）	8台
カウンターテーブル大（国産ブナ材使用）	1台
カウンターテーブル小（国産ブナ材使用）	1台
イスB（国産ブナ材使用）	16台
円形テーブル（国産ブナ材使用）	4台
キッズスペース家具（国産針葉樹、スギ使用）	1式

□ 取組の背景

新庁舎は、「市民に親しまれる庁舎」「愛着が持てる庁舎」を基本理念に掲げ、整備を進めてきた。その一環として暖かみのある木調デザインを新庁舎の外壁や天井等にアクセントとして取り入れており、来庁者を迎え入れるエントランスホール、憩いの場となる市民ラウンジに設置するテーブルやイス等の備品についても木製家具の導入を検討してきた。

□ 工夫・留意した点

- ・建物内外装や備品の統一感を図り、庁舎や木製品により親しみを持っていただけるよう、建物に取り入れた木格子調デザインに合うイスやテーブルを選定した。
- ・子どもたちが木のぬくもりや感触を感じられるよう、キッズスペース家具は、木製品を導入した。

□ 取組の効果

来庁者に快適な環境を提供し、リラックスしながら木材に触れる機会を提供することができた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：3,5734千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人
	⑤林業就業者数（※2）：0人



エントランスホール



市民ラウンジ



市民ラウンジ（キッズスペース）

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 鴻巣市では森林環境譲与税を活用して、公共施設の木質化や木製の机・椅子の導入を進め、木材利用の促進・普及啓発に取り組む方針。
 - 令和5年度においては、市内小中学校の特別教室の木製の机・椅子の老朽化が進んでいたため、国産木材を使用したものを購入し、整備を行った。（令和5年度は4校を実施。）
- 令和6年度においても、市内小中学校の特別教室の机・椅子の更新を継続的に進めていくとともに、計画的に木材利用の推進を行うこととしている。

□ 事業内容

小学校備品購入事業・中学校備品購入事業

- ・市内小中学校の特別教室の机・椅子の老朽化が進んでいるため、順次購入し、整備を行う。（令和3年度は2校、令和4年度は3校、令和5年度は4校を実施）

【事業費】11,330千円（うち譲与税10,708千円）

（譲与税は、木製備品の購入に係る部分に充当）

【実績】木製作業台39台、木製角椅子160脚購入

□ 取組の背景

- ・市内小中学校の特別教室の木製の机・椅子の老朽化が進んでいる。



（小中学校特別教室机・椅子購入）

□ 工夫・留意した点

- ・小中学生に対しても、親しみやすく温かみのある木製の机・椅子を新規購入することで、将来を担う子供たちへの良い普及啓発となった。
- ・木材利用・普及促進のため令和3年度は2校、令和4年度は3校のところ、令和5年度は4校実施した。

□ 取組の効果

- ・譲与税を活用し、国産木材を使用した備品を購入することで安心・安全に子供たちが授業できる環境を整えられた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：12,798千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.2%	④人口（※2）：116,828人	⑤林業就業者数（※2）：2人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 朝霞市では、森林環境譲与税を主に木材利用に充てていく方針。
- 令和4年度は、小・中学校の机・椅子・ロッカーを購入したほか、公設保育園の床や壁改修工事を実施し、木材を利用した。令和5年度については、木材を利用した中学校の改修工事や博物館で開催されるイベントでの木材の普及啓発などを実施した。
- 令和6年度においては、ナラ枯れによる樹木伐採事業に活用する予定。

□ 事業内容

1 博物館運営事業

博物館 企画展「樹木とくらし」開催

【事業費】3,472千円（全額譲与税）

【実績】令和5年10月14日～11月26日 37回開催
2,993人来館

2 中学校施設改修事業

第三中学校屋内運動場床（フローリング改修工事）

【事業費】45,246千円（うち譲与税11,285千円）

譲与税はフローリング木材使用に係る部分に充当

【実績】コート面積1,169㎡



事業1
企画展「樹木とくらし」



事業2
第三中学校屋内運動場

□ 取組の背景

- ・中学校運動場の老朽化が進んでいたことに伴い、優先度の高い場所から改修工事を実施。
- ・博物館で展示等を開催し、地域文化の向上や生涯学習の啓発を実施。

□ 工夫・留意した点

- ・子供が触れ合う機会が多い公共施設を優先に利用した。

□ 取組の効果

- ・工事を実施したことで、安全で快適な施設運営に寄与することができました。
- ・博物館での企画展を実施し、木材利用の促進、木材の普及・啓発に努めました。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：14,757千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：1.6%	④人口（※2）： 141,083人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 家庭における生ごみの自己処理を実践してもらうとともに、ごみ減量に対する意識の醸成を図る取り組みを実施。
- ▶ 木材は、熱伝導率が低く加工しやすいだけでなく、長期間の屋外使用に耐えられることから越谷キエーロの材料として採用。
- ▶ 埼玉県産木材の利用促進のため、埼玉県産木材認証制度を活用。

□ 事業内容

【夏休み工作教室／モニター講習会】

本体の製作から行う工作教室およびモニター講習会の両教室を開催し、ごみ減量の学習と合わせて生ごみの処理量や処理経過の報告を依頼した。令和5年度は、次年度のキエーロ講座や販売事業を見据え、使い勝手や大きさについてのアンケート調査も実施した。

【事業費】 1,500千円（うち譲与税1,500千円）

（生ごみ処理器の材料および寸法に合わせたカット等の作業に係る部分に充当）

【実績】	教室	申込組数	参加組数	参加人数
	工作教室	68	38	99
	モニター	50	44	78
	計	118	82	178

100個分の組立前木材を購入し、82個分を配布

□ 取組の背景

・ごみ減量やリサイクルの普及啓発を目的として、家庭でできる生ごみ減量に着目した『ごみ減量啓発事業』を検討する中で、埼玉県産木材を使用した非電動型の生ごみ処理器を活用することとした。



（生ごみ処理器）



（製作の様子）



□ 工夫・留意した点

・材料のロス（破棄部分）削減のため、図面作成段階から業者と打合せを重ねて本体の形状、寸法を設定した。

・次年度の販売に向けた実証実験としてモニターを募集し、越谷キエーロの使い勝手や大きさなど、アンケートを実施するとともに、啓発教室としての展開も見据えて夏休み親子工作教室を開催した。工作教室は、家族でごみ減量に取り組めるきっかけ作りとなったほか、ものづくりを行う時間や木に触れる機会となった。

□ 取組の効果

生ごみ減量の取り組み集計 単位(g)

投入期間	7～8月	9～10月	11～12月	合計
投入量	190,295	212,136	179,746	582,177

参加者の抽出データ（Aさん3人家族） 単位(g)

投入期間	7/23～ 8/25	9/5～ 10/20	11/1～ 12/29	合計
投入量	11,820	11,650	15,900	39,370

<1人1日当たり>

$39,370(g) \div 138(\text{日}) \div 3(\text{人}) = 95.06(g)/(\text{日} \cdot \text{人})$ の削減を達成

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：35,734千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

-44- ※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

埼玉県 加須市（公共施設等への木材利用）

- 加須市では、森林整備等への理解促進につながる取組として、木材利用や普及啓発等を促進することを基本とし、これまで経費がかさむことで予算化が困難だった公園の木道やウッドデッキ、市有施設の木造化・木質化等の経費に森林環境譲与税を活用することとしている。
- 令和5年度においては、騎西地域の「あじさいロード」にある腐食した木柵ロープの改修を実施

□ 事業内容

公共施設等への木材利用（道路維持管理事業、公園整備事業）

- ・ 腐食した木柵ロープの改修を実施した。

【事業費】 7,854千円（うち譲与税7,101千円）

〔内訳〕 道路維持管理事業 4,114千円（うち譲与税4,088千円）

公園整備事業 3,740千円（うち譲与税3,013千円）

【実績】 改修した木柵の本数 229本

木材使用量 2.18106m³

□ 取組の背景

- ・ 騎西地域の「あじさいロード」にある木柵のロープが腐食し、木柵が倒れるなど、柵としての機能が低下していた。
- ・ 腐食した木柵により、景観が損なわれていた。

□ 工夫・留意した点

- ・ 鋼材を用いるのではなく、木柵ロープとすることで、木材の利用促進・普及啓発に努めた。

□ 取組の効果

- ・ 「あじさいロード」の景観を損なうことなく、利用者（観覧者）の安全性を確保した。



（改修前）

（改修後）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：12,398千円		②私有林人工林面積（※1）：-
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：111,623人	⑤林業就業者数（※2）：5人

- 森林が無い吉川市において、森林が有する公益的機能の普及啓発を目的に、市内公園の遊具整備や市内小学校における木製備品整備を行うなど、木材利用の促進・普及啓発に資する取組を実施した。

□ 事業内容

1 国産木材を使用した公園遊具整備事業

- 市内公園1箇所に国産木材を使用した遊具を整備。
【事業費】5,335千円（うち譲与税5,046千円）
【実績】沼辺公園：ターザンロープ遊具1基

2 国産木材を使用した備品整備事業

- 市内小学校3か所において国産木材を使用した備品整備を実施。
【事業費】2,623千円（うち譲与税2,482千円）
【実績】関小学校：木製机4台
北谷小学校：木製机9台
栄小学校：木製椅子40脚

□ 取組の背景

- 吉川市には森林が無いいため、木材利用の促進や森林の公益的機能の普及啓発を中心に取組を推進する方針としている。

□ 工夫・留意した点

- 譲与税という貴重な財源を効果的に木材利用の普及啓発に活用するため、市内公共施設の木質化を実施し、持続的かつ波及効果の高い普及を図った。

□ 取組の効果

- 公園の木製遊具整備や学校における木製備品整備を通して、日常的に木材を利用した備品に触れる機会を創出した。



（沼辺公園 遊具）



（関小学校 机）



（栄小学校 椅子）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：7,528千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：71,979人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

➤ 公共施設の木質化を推進するため、都市公園に木製遊具を設置する。

□ 事業内容

都市公園等整備事業

・都市公園（2園）に木製遊具を設置する。

【事業費】6,500千円

【実績】5,577千円（うち譲与税5,577千円）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：15,012千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.0%	④人口（※2）：142,145人	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



花和田児童公園 木製遊具

➤ 公共施設の木質化を推進するため、公立保育所に木製遊具を設置する。

□ 事業内容

保育所運営管理事務事業

・公立保育所（2園）の木製遊具を設置する。

【事業費】 12,000千円

【実績】 11,220千円（うち譲与税11,220千円）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：15,012千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.0%	④人口（※2）：142,145人	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



さくら保育所 木製遊具



丹後保育所 木製遊具

- ▶ 春日部市では「春日部市市有施設の木造化・木質化等に関する指針」に基づき、森林環境譲与税を活用しながら、市有施設における県産材や国産材の利用に努め、木材利用の促進を図っていく方針。
- ▶ 令和5年度は、新本庁舎の建設工事に際し、議場や窓口カウンターに国産材を活用した。

□ 事業内容

新本庁舎における国産材使用

- ・ 「春日部市市有施設の木造化・木質化等に関する指針」に基づき、新本庁舎の議場及び窓口カウンター等に国産材を使用

【事業費】 11,296,360千円（うち譲与税94,961千円）

（譲与税は、国産材に係る部分に充当、総事業費はR3～R5の継続費、譲与税についてはR5に充当）

【実績】 木材使用量

議場 8.7㎡ 窓口カウンター他家具22.0㎡

□ 取組の背景

- ・ 平成30年度に「春日部市市有施設の木造化・木質化等に関する指針」を策定し、市有施設の木造化・木質化を促進
- ・ 旧本庁舎が昭和45年に建設された旧耐震基準の建物であり、老朽化が進んでいたことから、令和3年度から令和5年度にかけて、旧市立病院跡地に新本庁舎を建設



（議場）



（窓口カウンター）

□ 工夫・留意した点

- ・ 議場は、国産材を使用することにより市の特産品である桐箱をイメージした。
- ・ 議場内においては、建築基準法の内装制限により不燃化処理をした木材を使用した。
- ・ 吸音性能を高めるため、天井材の施工にあたっては材料のピッチを変化させた。

□ 取組の効果

- ・ 議場及び窓口カウンターに木材を使用したことにより、明るく、柔らかい温かみのあるイメージにすることができた。
- ・ 国産材の使用事例として、今後、市有施設での木材利用の促進につながることを期待している。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：24,182千円	②私有林人工林面積（※1）：-
③林野率（※1）：0.5%	④人口（※2）：229,792人
	⑤林業就業者数（※2）：1人

- 草加市では、森林環境譲与税を公共施設等の新築・改修時や公園等の整備に効果的に活用するため草加市森林環境譲与税基金を設置している。
- 令和5年度においては、森林環境譲与税を活用し、児童発達支援センターの建て替えに伴う施設内備品の木質化を実施。

□ 事業内容

児童発達支援センターあおば学園木製家具等備品設置

- 対象施設の建て替えに伴い、県産木材を活用した家具等備品の木質化を実施。

【事業費】18,007千円（全額譲与税）

【実績】下駄箱、ロッカー収納棚等
県産木材利用

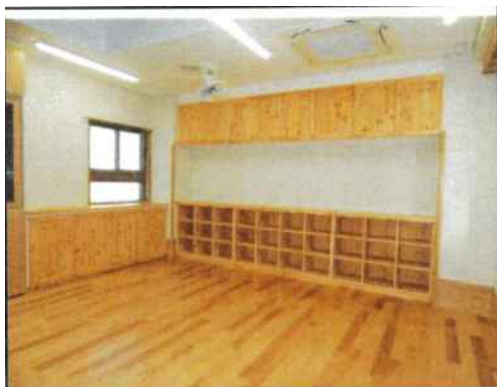
□ 工夫・留意した点

- 県産木材の利用拡大を図るとともに、児童に木のぬくもりを感じてもらい、木材の普及啓発も併せて図れるようにした。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：25,972千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：248,304人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



- ▶ 八潮市では、公共施設等の木造化や木質化を図るほか、木製備品や消耗品の使用等に努める方針である。
- ▶ 令和5年度においては、新庁舎の外装材等の一部木質化や、議場の木製家具の整備を実施した。

□ 事業内容

1 公共施設等の木質化事業

- ・ 2階屋外市民活動スペースの軒天部分に国産木材を使用した。
- ・ 4階議場に木製家具を整備した。

【事業費】 123,867千円（うち譲与税35,000千円）
（譲与税は、2階屋外市民活動スペースの軒天部分、及び議場木製家具に充当）

【実績】 木材使用量（軒天部分） 22.74 m³
議場木製椅子 46脚
議場木製机 49台

□ 取組の背景

- ・ 本市では、市有施設の木造化・木質化等に関する方針を定めており、庁舎においても、共用部等の内装や、軒天及びピロティの天井部分等の外装について木質化に努めること、また、木製備品等の使用に努めることが規定されていることから、新庁舎整備にあたり、当該部分の木質化に取り組んだ。

□ 工夫・留意した点

- ・ 市民等の来庁者に木材の持つぬくもりや、やすらぎのある雰囲気伝えるため、新庁舎の顔である2階市民活動スペースの軒天部分に木材を使用し、ルーバー状の仕上げとすることで、特長的な印象を持たせた。
- ・ 議場に木製家具を使用することで、議場自体の雰囲気を柔らかくし、市民等が傍聴に来やすい環境づくりに努めた。

□ 取組の効果

- ・ 木材を積極的に利用した市民活動スペース及び議場については、ぬくもりを感じられる空間となり、新庁舎を見学された方からも好評をいただいている。
- ・ 新庁舎の整備に木材利用の効果も相まって、市民をはじめ、多くの方に来庁していただいているほか、県外の自治体等から、新庁舎の視察申し込みを多数いただいている。



（2階軒天部分）



（2階軒天部分夜景）



（4階議場）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：9,766千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：93,363人	⑤林業就業者数（※2）：1人

- 蕨市では、森林環境譲与税を公共施設等の木材利用などに活用する方針。
- 令和5年度は、森林環境譲与税を活用し、10月に開庁した市役所新庁舎の一部木質化などを実施した。

□ 事業内容

1 新庁舎建設工事

- 令和5年10月に開庁した市役所新庁舎の建設工事において、議場の一部及びエコボイド廻りの手摺について木質化を実施した。

【事業費】 3,489,134千円（うち譲与税12,166千円）

（譲与税は、議場及びエコボイド廻りの木質化に係る部分に充当）

【実績】 木材使用量1.0m³

2 樹木再生利用

- 市役所旧庁舎解体工事において伐採したケヤキの木を2台のベンチに加工し、市役所新庁舎コミュニティバス停留所と議場傍聴ロビーに設置した。

【事業費】 835千円（うち譲与税834千円）

【実績】 木材使用量0.2m³



（議場の一部木質化）



（エコボイド廻りの木質化）



（樹木再生ベンチ）



◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：7,770千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：74,326人
	⑤林業就業者数（※2）：0人

- 松伏町では、森林環境譲与税を活用して、公共施設の木質化を進め、木材利用の促進・普及啓発に取り組む方針。
- 令和5年度においては、外前野記念会館運営事業にて、老朽化した集会施設の内装改修工事に伴い、廊下や会議室等の壁面の木質化を行った。

□ 事業内容

外前野記念会館運営事業

- ・ 老朽化した集会施設の内装改修工事に伴い、廊下や会議室等の壁面の木質化を実施。

【事業費】 19,306千円（うち譲与税2,500千円）
（譲与税は、廊下や会議室等の壁面の木質化に係る部分に充当）

【実績】 腰壁 54.4㎡

□ 取組の背景

- ・ 松伏町では、森林環境譲与税を活用して、公共施設の木質化を進め、木材利用の促進・普及啓発に取り組む方針。
- ・ 公共施設の建設や改修工事の際は、投資効果なども含め木質化を検討している。



（廊下）



（2階会議室）

□ 工夫・留意した点

- ・ 壁面の木質化工事と併せて、照明器具のLED化及び隣接する駐車場を舗装整備することで、更なる利便性の向上を図った。
- ・ 地域社会と交流を図るコミュニティの場として活用されているため、「健康的で快適な公共空間の提供」、「地球温暖化の防止」、「林業・木材産業の振興」などに資することを目的とした。

□ 取組の効果

- ・ 当会館は、集会施設としての利用や様々なサークル活動に利用されていることから、廊下や会議室等の壁面を木質化したことで、「健康的で快適な公共空間の提供」ができた。
- ・ クロス張りの壁を木質化にすることで、地球温暖化の防止や林業・木材産業の振興に貢献した。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：2,956千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：28,266人	⑤林業就業者数（※2）：0人

▶杉戸町では、子どもと子育て支援の拠点として、より利用しやすく魅力的な場所、交流する場所とするために、空間づくりに関し、「自然環境から心身を育む空間づくり」をコンセプトとし、「木質化・木育化」を図るため、公共施設等への木材利用に森林環境譲与税を活用した。

■事業内容

◆未就学児用遊戯室の木質化を実施

【事業費】

10,951千円（全額譲与税）

【実績】

- ・大型すべり台・ボルダリング・おもちゃ棚・収納棚
- ・おままごと棚・赤ちゃんコーナー用木製たまごプール
- ・国産杉材製ベンチ・オリジナルサイン・ベンチ
- ・木のポーリング・寄木の積木

■取組の背景

自然素材の木の遊具・玩具は、断熱性や保温力に優れている点から、ぬくもりや匂い、木目の美しさを感じるにより「五感を刺激する唯一のおもちゃ」として子どもの健やかな成長を育む遊具や玩具の素材として最適であり、センターを利用する親子の最善の利益に繋がるものと考えた。



【大型遊具すべり台】



【ボルダリング】

■工夫・留意した点

木の遊具・玩具のメリットとして、①想像力を培う、②多様性を知る、③森との繋がりを知る、④いのちの大切さを実感できることが挙げられる。③や④の点については、埼玉県産の木材を活用しており、埼玉県の林業・林産物を活性化させるとともに、県内の木や森に関心が持てるようになることについて、期待できるものと考えた。

■取組の効果

- ・木材に触れることで五感が刺激され、感性や物事への視野が広がる効果が期待できる。
- ・木の匂い成分にも、リラックス効果があることが立証されており、情緒を安定させる作用が期待できる。
- ・木の魅力を知ることによって、将来的に環境を愛し、育てる人材が増えることが期待できる。木育を通じて、「自然を守る心」が自然と芽生え、環境問題への意識が高い子どもが増える。

◆基礎データ

①令和5年度譲与額：4,730千円	②私有林人工林 0
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：43,845人
	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020 農林業センサスより、※2：「R2 国勢調査」より

- 長瀬町では、県産材の利用促進及び森林・林業への普及啓発を図るため、多くの観光客が訪れる宝登山地域において、遊歩道の改修を実施する方針。
- 令和5年度については、以下の事業内容のとおり。
- 令和6年度についても、引き続き同事業を継続する。

□ 事業内容

1 遊歩道の改修

- ・ 遊歩道の当初整備から10年以上が経過し、当時施工した木製土留等が劣化しており、遊歩道利用者の安全、景観的問題が発生しているため、木製土留等の改修を実施。

【事業費】693千円（全額譲与税）

【実績】木製土留の改修 延長20.0m

使用木材 県産ヒノキ(丸太加工L=2000×φ100) 79本

使用木材量 1.46m³

□ 取り組みの背景

- ・ 森林・林業への普及啓発を効果的に行うため、多くの観光客が訪れる宝登山地域を選定した。



(改修前)



(改修中)



(改修後)

□ 工夫・留意した点

- ・ 町職員による改修工事の設計
- ・ 県産材の利用促進を図るため、工事特記仕様書に県産木材の使用を明記した。

□ 取り組みの効果

- ・ 改修により歩行者の安全が保たれた。
- ・ 木材を使用したことで、観光客に木の温もりを感じ、親しみをもっていただいた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額	3,588千円
②私有林人工林面積（※1）	826ha
③林野率（※2）	70.5%
④人口（※3）	6,809人
⑤林業就業者数（※4）	2人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より、
-55※4：「H27年国勢調査」より

- 皆野町では、秩父産材のPRに加え、間伐材の活用方法が課題となっている。
- このため、町民の目に触れやすい職員用の名札に秩父産材を用いる取組と、庁舎内で来客者用に使用するパーティションの作成事業を実施。

□ 事業内容

1 職員用名札及びパーティション作成業務委託事業

秩父産材の木材の仕入れから、打ち出し、レーザー加工までの一連の作成業務を委託する事業。

【事業費】 364千円（全額譲与税）

【実績】 職員用名札 11名分
木材パーティション 5枚

□ 取組の背景

- ・ 木材利用促進、秩父産材のPR及び森林環境譲与税の活用を目的として、職員用名札及び木材パーティションを作成した。



（作成名札裏面）



（作成したパーティション）

□ 工夫・留意した点

- ・ 名札、パーティションの双方に、秩父産材を使用している旨の文言を印字した。
- ・ 秩父産材の使用及び、町内に整備されているサテライトオフィスのレーザー加工機等を用いて名札を作成した。

□ 取組の効果

- ・ 木材利用の促進
- ・ 秩父産材のPR

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：7,964千円	②私有林人工林面積（※1）：1,955ha	
③林野率（※1）：71.7%	④人口（※2）：9,302人	⑤林業就業者数（※2）：6人

- ▶ さいたま市では、森林に対する知識・関心・興味を高めるため、市民に対し森林の持つ公益的な機能等について積極的に普及啓発を行う方針。
- ▶ 令和5年度は、山間部の3自治体と市内イベントへ協働出展し、県産材を用いた啓発品の配布及び木材利用推進の周知・PRを行った。

□ 事業内容

森林啓発に関する事業

- ・ 浦和区民まつり2023 ブース出展
- ・ 第21回南区ふるさとふれあいフェア（南区民まつり）ブース出展
- ・ 2023大宮区民ふれあいフェア（大宮区民まつり）ブース出展
- ・ 第22回さいたま市環境フォーラム ブース出展

【事業費】179千円（全額譲与税）

【実績】木製コースター 845個配布

□ 取組の背景

荒川上流域の山間部自治体（秩父市、飯能市、ときがわ町）にコンタクトをとり、協働で行える事業はないかを模索したところ、さいたま市のイベントに協働出展し、各自治体の地域産木材（埼玉県産木材）を使用した体験の機会を提供することで、より効果的な木材利用・普及啓発が行えるとの考えで一致し、令和4年度に引き続き、事業を実施した。

□ 工夫・留意した点

- ・ 来場者の目を引くように、のぼりやパネルを目立つように展示。
- ・ 丸太切り体験や積み木チャレンジ、ワークショップなどを行い、皆が興味を持ち、参加したくなるよう演出。
- ・ 啓発グッズ（木製コースター）を配布し、県産材等の利用促進に係る普及啓発を実施。

□ 取組の効果

- ・ 森林の公益的機能及び森林資源の循環利用による森林整備の効果などを周知できた。
- ・ 荒川上下流域の連携による森林づくりの取組について周知でき、「西川材」「秩父材」などの埼玉県産木材をPRできたことで、木材利用の推進・普及啓発が行えた。



（浦和区民まつりブース）



（南区民まつりブース）



（大宮区民まつりブース）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：140,850千円	②私有林人工林面積（※1）：12ha
③林野率（※1）：1.3%	④人口（※2）：1,324,025人
	⑤林業就業者数（※2）：16人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

➤ 杉戸町・神川町相互交流協定の目的である両町相互の地域活性化並びに森林環境譲与税の活用における木材利用・普及啓発の趣旨に照らし、相互交流都市である神川町産木材を使用することで、神川町との関わりを強化し、互いの町へ愛着を持ってもらうため、古利根川流灯まつりで使用する大型灯ろうの木枠用材料として神川町産の木材を使用した。

□ 事業内容

大型灯籠用県産木材購入

- 杉戸町の夏の風物詩である古利根川流灯まつりの際に設置する大型灯ろうに、上下流交流の協定を結んでいる埼玉県神川町の木材を活用し、両町の交流と木材利用の普及を行うもの。

【事業費】441千円（うち譲与税441千円）
（譲与税は、木材購入費に係る部分に充当）

【実績】大型灯ろう50基分の木材を購入

- ・ 桧 1850mm×30×40 450本
- ・ 桧 2000mm×45×105 100本
- ・ 桧 1850mm×15×90 34本

□ 取組の背景

・杉戸町・神川町相互交流協定の目的である両町相互の地域活性化並びに森林環境譲与税の活用における木材利用・普及啓発の趣旨に照らし、相互交流都市である神川町産木材を使用することで、神川町との関わりを強化し、互いの町へ愛着を持ってもらうため、神川町産木材を購入することとなった。

□ 工夫・留意した点

- 大型灯ろう用木材として使用するため、水に強い桧を選定し、かつ、組立用に加工が必要なことから、節が少ないものを選定した。

□ 取組の効果

- 流灯まつりでの使用や、灯ろう作りワークショップ等で利用することで、木材利用・普及啓発につながった。



（古利根川流灯まつり）



（組立作業）



（購入木材）

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：4,730円	②私有林人工林面積（※1）：0	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：43,845人	⑤林業就業者数（※2）：1人